

## 講師プロフィール

2019年5月11日（土）

「健康生き活き羅針盤リサーチコンプレックスにより開発した健康関数™」



### 水野 敬

理化学研究所健康生き活き羅針盤リサーチコンプレックス  
推進プログラム 健康計測解析チーム チームリーダー

#### 【概要】

「健康生き活き羅針盤リサーチコンプレックス」は、より正確な健康維持・増進への指針、つまり将来にわたり健康で“生き活き”とした人生を送っていく上での「羅針盤」の提供を目指しています。本事業プログラムを通じて、これまでにない疾患発症の前段階の「未病」を可視化するための新しい「健康関数™」の開発に成功しました。本講演では健康関数の紹介と未病克服のためのソリューション開発応用など今後の活用法について概説します。

#### 【略歴】

2007年大阪市立大学大学院博士課程修了、博士(医学)。日本学術振興会・特別研究員、科学技術振興機構・研究員、理化学研究所分子イメージング科学研究センター・研究員等を経て2017年より現職。大阪市立大学大学院医学研究科疲労医学講座・特任准教授、大阪市立大学健康科学イノベーションセンター・センター副所長も兼任。著書は2008年「Fatigue Science for Human Health」、2016年「おいしく食べて疲れをとる」、2018年「疲労と回復の科学」など。専門分野は疲労科学、脳科学。

2019年6月8日（土）

## 「人と組織を動かすプレゼンテーションの極意」



### 新名 史典

株式会社Smart Present 代表取締役

#### 【概要】

プレゼンテーションは単なる説明術でも、カッコいいトークテクニックでもありません。優れた技術、優れたソリューションもそのすばらしさを理解していただき、協力してくださる方々に動いてもらってはじめて社会に貢献できます。そのために必須の要素、ストーリー構成、そして魅せ方をトータルで考え、実践いただけるようにノウハウをご提供させていただきます。

#### 【略歴】

1997年 大阪府立大学大学院 農学研究科博士前期課程修了

1997年 サラヤ株式会社入社。技術営業とマーケティング、商品開発業務に従事

2011年 独立起業し、株式会社Smart Present設立。特に研究者、技術者のプレゼンテーション支援に積極的に携わる。

モットーは「ビジネスは伝わってナンボ！」

圧倒的なプレゼン機会の経験をベースに、「人と組織」を動かすためのプレゼンテーション理論を確立。

年間300件の企業・団体・自治体研修での指導にあたり、MOTスクールでの登壇、奈良先端科学技術大学院大学、大阪府立大学などの研究機関での登壇、文部科学省国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)、公益財団法人大阪市都市型産業振興センターなどの各プロジェクトにてプレゼンテーション・ビジネスプランのブラッシュアップの指導にあたる。

2019年6月8日（土）

## 「事例から見るデジタルヘルス事業創造のポイント」



### 南雲 俊一郎

株式会社日本総合研究所 リサーチ・コンサルティング部門  
ヘルスケア・事業創造グループ 担当  
部長・プリンシパル

#### 【概要】

国内外のデジタルヘルス事例を俯瞰しながら、事業創造のポイントについてご説明申し上げます。

#### 【略歴】

東北大学大学院 工学系研究科 原子核工学(修士課程)修了後、株式会社日本総合研究所入社、現在に至る。専門テーマは、技術の事業化支援を必要とする新規事業創出・マーケティング戦略再構築が専門領域。主な執筆記事は、「技術価値創造を通じた研究開発テーマの再構築」(Business Research No.1026,2009年/12月,社団法人企業研究会)など。コンサルティング実績は、大手製薬メーカー、大手医療機器メーカー、大手電機メーカー、ITベンチャーなど多岐に渡る。

2019年7月13日（土）

## 「勃興するバイオエコノミーと岐路に立つ日本」 ～デジタル×バイオ時代の到来～



### 山本 一彦

神戸大学大学院 科学技術イノベーション研究科 教授  
経営学研究科 教授(兼任)

一橋大学大学院 経営管理学研究科(MBA) 客員教授

株式会社科学技術アントレプレナーシップ (シード・アクセラレーター) 取締役

株式会社バイオパレット (ゲノム編集) 取締役

株式会社シンプロジェン (DNA合成) 取締役

ViSpot株式会社 (ウイルス安全性評価機関) 取締役

#### 【概要】

- バイオテクノロジーの主眼は、生物を「知る」「観察する」「解析する」時代から、生物を「利用する」「デザインする」時代へ、劇的に変化している。
- 合成生物学(DNA合成、ゲノム編集等)とデジタルプラットフォーム(AI、Robotics、IoT等)の急速な発展と融合によって、微生物/植物/動植物細胞/藻類等の生物資源を使って、有用物質を安定的かつ大量に生産し、利用することができる、バイオエコノミー時代が到来した。
- 勃興するバイオエコノミーと岐路に立つ日本の現状及び課題を、海外の先端事例等を交えながら考察する。

#### 【略歴】

住友電気工業(株)、(株)野村総合研究所(企業財務調査室)を経て、ベンチャー企業などで財務、経営戦略の責任者を経験。1998年に独立系ベンチャーキャピタルを創業し、代表取締役に就任。創業期専門のベンチャーキャピタリストとして、長年にわたりベンチャー企業の投資育成に取り組む。2016年1月に神戸大学発ベンチャーの創業支援等を目的に設立された(株)科学技術アントレプレナーシップの取締役に就任(現任)。2016年4月に神戸大学大学院科学技術イノベーション研究科の教授に就任(現任)。

2019年7月13日（土）

## 「『健康寿命延伸への取り組みとその課題』」



### 浦田千昌

認定NPO法人 健康ラボステーション理事長

#### 【概要】

健康づくりの大切さを伝えていく発信拠点、健康寿命延伸に向けての取り組みとして、街なかや企業内での出張健康測定会を実施。今までに、300件を超える測定会を行い、56,000人以上を測定してきたなかで、様々な気づきや課題があります。大阪市民の健康意識、測定機器の使いやすさや性能など、私たちが感じる事をお話いたします。

#### 【略歴】

1991年 立命館大学 経営学部経営学科卒業

1991年 旧住友銀行入行

2003年 株式会社育星会入社

2013年 NPO法人健康ラボステーション設立(2015年認定NPO法人へ)

大阪市立大学健康科学イノベーションセンターや阪急阪神ホールディングスなどでの地域向け健康測定会をはじめ、コニカミノルタ(株)や住友商事(株)、大阪ガス(株)など企業では、社員向け健康測定&栄養相談会を実施。一昨年には、理化学研究所や医薬基盤・健康・栄養研究所との共同研究をスタート。健康人のデータ収集担当としての活躍の場も広がってきています。

2019年8月10日（土）

## 「脳と個性」



### 高橋 佳代

理化学研究所生命機能科学研究センター  
健康・病態科学研究チーム 上級研究員  
健康生き活き羅針盤リサーチコンプレックス推進プログラム  
健康計測解析チーム 研究員

#### 【概要】

ヒトには個人それぞれの様々な性格・気質があります。これらが何によって決定されているかということはまだ正確にはわかっていません。遺伝的要因と環境的要因の両方があると考えられていますが、ひとつの要因として性ホルモンなどの神経内分泌系を含む神経伝達物質がヒトの性格・気質に深くかかわり、感情や行動に影響を及ぼすことがわかってきています。今回は、脳機能イメージングを用いた研究で明らかになってきた、性ホルモン系・神経伝達物質と性格・気質の関係などについてお話しします。

#### 【略歴】

2006年 スウェーデン・ウプサラ大学大学院博士課程単位取得退学。博士(医学)。2006年理研分子イメージング研究プログラム研究員、分子イメージング科学研究センター研究員、ライフサイエンス技術基盤研究センター研究員を経て、2016年より現職。脳内ホルモンの働きとヒトの感情・気質の関連についての脳科学研究に携わる。

2019年8月10日（土）

## 「SDGsの世界感を理解する SDGs体験ワークショップ」



### 今田 大介(いまだ だいすけ)

一般社団法人インバウンド・ダイバーシティ協会 代表理事

#### 【概要】

SDGsとは「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の略称で2015年9月に国連加盟国193カ国全会一致で採択されました。2016年～2030年の15年間で達成するために掲げた17の目標です。

「SDGsって聞くけどよくわからない」

「会社でSDGsに対応するように言われた」

SDGs(「エスディージーズ」と読みます)は重要な目標で私たちの未来に必要なものですが、なんとなく難しいそうとのご意見も伺います。

今回は、座学でSDGsを学ぶのではなくワークショップ形式で、SDGsの世界感をシュミレーション体験し、ライフサイエンス分野にてどのように取り入れることができるか共に学びましょう。

#### 【略歴】

明治大学政経学部政治学科卒業後、新卒で議員秘書になる。20代で2度出馬するも落選。30代で関西学院大学専門職大学院にてMBAを取得し、コンサルファームにてPPP(公民連携)分野を担当しPFIや指定管理のアドバイザーや公共施設の第三者評価業務に従事。現在は地方創生として、SDGs目標17のパートナーシップの観点からインバウンドにかかわるとともに、SDGsコンサルタントとして企業や学校、団体等に対してアドバイザーを行っている。

※MOT6・MOT7の修了者

2019年9月14日（土）

## 「高齢者の安全で有効な薬物治療のために」



### 平井 みどり

兵庫県赤十字血液センター 所長

#### 【概要】

元気で社会的に活躍する高齢者が多くいる一方で、多くの医療機関の待合は、高齢者で占められている。百歳を超えるお年寄りが珍しくなくなった日本で、自分は健康と自認している高齢者でも、2種類程度の治療薬を使用している例は多い。さらに、複数疾患を抱えている場合には、治療薬の種類が加速度的に増加している。多種類の治療薬は相互作用を生じる可能性が高くなるうえに、中には効果よりも有害作用が前面に出してしまうものも認められる。このような「ポリファーマシー」状態を是正し、安全で有効な薬物治療を行うための考え方・対応策について述べてみたい。

#### 【略歴】

1974年 3月	京都大学 薬学部 卒業(薬学士) 薬剤師
1985年 3月	神戸大学 医学部 卒業(医学士) 医師
1990年 3月	神戸大学大学院医学研究科生理学系専攻博士課程修了 医学博士
1990年 8月	京都大学医学部附属病院 薬剤部 文部教官助手
1995年 4月	神戸薬科大学 助教授
2002年 10月	神戸薬科大学 教授
2007年 3月	神戸大学医学部附属病院 教授・薬剤部長
2017年 4月	同 定年退職 神戸大学 名誉教授
2018年 4月	兵庫県赤十字血液センター 所長 現在に至る

2019年9月14日（土）

## 「医療機器開発の現状と課題」



### 保多 隆裕

神戸大学医学部附属病院 臨床研究推進センター  
特命准教授

#### 【概要】

わが国の医療機器市場規模はおよそ3兆円で、年々拡大しているものの、欧米や新興国に比べてその成長率は低く、中国などに市場規模で追い抜かれる日もそう遠くない。加えて国内市場のおよそ半分は欧米製品で、特に治療系機器の輸入依存度は際立っている。講義では医療機器の開発のプロセスおよび日本の医療機器産業の現状と課題について解説する。

#### 【略歴】

内資・外資の製薬会社で10年余り創薬研究に励んだ後に退職。海外の大学院で博士号を取得し、上席研究員としてとどまる。帰国後は神戸大学医学部附属病院で医薬品、医療機器、健康食品のトランスレーショナルリサーチを実施。

2019年10月12日（土）

## 「病院建築は医療経営のエッセンスを全て含んでいる」



### 福島 公明

立命館大学 OIC総合研究機構 医療経営研究センター  
客員教授

#### 【概要】

病院経営は単にその病院だけでなく地域に大きな影響を及ぼします。特に破綻した場合はその影響は計り知れないものがあります。そして、経営破綻の三大原因の一つに病院の建築が挙げられます。病院建築の過程は単なる建築工学的な技術のみでなく、政策、医療関連法令や診療報酬の改訂、戦略、財務計画、地域の人口構成、マーケティング、医療技術の発展、医療機器特に大型機器の開発・上市の見込み、人材の確保、等々多くの要素を総合的に検討する必要がある、医療経営のすべての要素を包含します。病院建築に関する豊富な経験を元に講義を行います。

#### 【略歴】

1995年 大阪府済生会吹田病院事務長。在職中、済生会全国事務長会 会長就任。2006年淀川キリスト教病院局長、本部長。2010年独立行政法人 国立循環器病研究センター理事就任（兼務）。2015年立命館大学OIC総合研究機構医療経営研究センター 客員教授就任、現在に至る。その間、スマートウエルネス研究会 代表幹事、市立池田病院 経営委員会 会長、他を歴任。現在 公立甲賀病院評価委員会委員長、茨木市総合福祉審議会 健康医療推進分科会委員。

#### 主な関与建築（以下は病院等・新築のみ）

ファルコバイオシステムズ総合研究所、済生会特別養護老人ホーム松風園(100床)、済生会吹田病院(500床)、済生会吹田病院東館、済生会千里病院(建築途中まで)。淀川キリスト教病院(630床)。

2019年10月12日（土）

## 「事業化を目指す研究者のための 特許と契約」



### 浅野 滋啓

九州大学・ARO次世代医療センター 特任准教授

#### 【概要】

様々な大学や企業との多数のコラボレーションを推進してきた実際の体験を踏まえ、研究開発から事業化における知財戦略と契約交渉を中心に、企業の知財戦略は大学等のそれとどこが違うのか、企業はどんな点を重視しているか、企業とアカデミアの産学連携・企業間の共同研究開発を如何に上手く進めるか等、具体的事例も含めてお話しします。研究成果を事業につなげ成功させる上で、特許の観点で先ず考えるべき重要ポイント2つ、また、研究者として（法律の条文や契約書の文言など難しいことは分からなくても）、最低限ここだけは押さえておきたい特許や契約のエッセンスについて、皆様と一緒に考えたいと思います。

#### 【略歴】

1987年 京都大学大学院・農学研究科農芸化学専攻 修士課程修了  
1988年 武田薬品工業株式会社 生産技術研究所・バイオ技術センター・研究員  
1994年 武田薬品工業株式会社 特許部・特許出願グループ・課長代理  
2000年 武田薬品工業株式会社 知的財産部・知財情報グループ・主席部員（係争訴訟担当）  
2002年 Takeda Europe R&D Center（ロンドン駐在、3年）  
2005年 武田薬品工業株式会社 知的財産部・シニアマネージャー（技術提携）  
2015年 武田薬品工業株式会社 Strategy & Operations, IP & Alliance Director  
2017年 11月より 現職（2018年4月より、広島大学・トランスレーショナルリサーチセンター 客員准教授 を併任）

（日本ライセンス協会(LES Japan)理事、教育福委員長、研修副委員長； ARO協議会知財専門家連絡会委員）

2019年11月9日（土）

## 「ベンチャースピリットとポジティブシンキング」



### 安達 宏昭

株式会社創晶 代表取締役社長

#### 【概要】

ベンチャー起業には心理的な不安がマイナス要因として立ちはだかる場合が多い。特に、日本においては、ベンチャー起業に対するネガティブな印象が強い。その壁を打ち破るためには、個人のメンタル状態を良くしなければならない。私自身がメンタルトレーニングにより、株式会社創晶の起業を後押しされた経験を有する。その後、メンタルトレーニングによるイノベーション創出を支援することを目的とした株式会社創晶應心を設立するに至っている。

当日は、ベンチャー起業に必要なマインドについて議論し、ポジティブシンキングに繋がるメンタルトレーニングを体験いただく予定である。ポジティブシンキングの重要性を理解し、マインドがプラスに変化するきっかけをつかんでいただければ幸いである。

#### 【略歴】

2003年3月 大阪大学大学院工学研究科博士後期課程, 電気工学専攻 修了, 博士(工学)  
2003年4月 大阪大学大学院工学研究科 助手  
2005年7月 株式会社創晶 代表取締役社長  
2011年6月 社会福祉法人あおば福祉会 理事  
2013年4月 株式会社創晶應心 代表取締役社長  
2013年7月 柴又運輸株式会社 顧問  
2014年5月 株式会社創晶大学 代表取締役社長  
2016年1月 株式会社dotAqua 代表取締役社長  
2016年2月 株式会社A・P・M 取締役  
2016年3月 株式会社創晶超光 代表取締役社長  
2016年7月 大阪大学大学院工学研究科 招へい教授

2019年12月14日（土）

## 「リーダーシップの本質と実践」



### 能見 貴人

FORESIGHT & LINX 株式会社 代表取締役社長

#### 【概要】

今日、あらゆる局面でリーダーシップの重要性が唱えられているが、一方でリーダーシップの本質とは何かという問いに明確に答えられる人は少ない。多くの場合リーダーシップとマネジメントが混同され、組織でのリーダーシップ開発が間違った方向に進められているケースも少なくない。本講では、リーダーシップに関する様々な疑問に答えつつ、リーダーシップの本質を定義し、リーダーとして心に留めておくべき重要な点を解説する。

#### 【略歴】

- ・ FORESIGHT & LINX 株式会社 代表取締役社長 (2017 May ~) FORESIGHT & LINX (株) は、国内外の製薬企業やバイオベンチャーのオープンイノベーション、事業開発、創薬戦略に対するコンサルティングと実行支援を行う会社です。特に、海外と国内の企業間でのパートナーリングを専門としています。
- ・ Director, External Science & Partnering, Sanofi Global R&D (2014~2017)
- ・ 製薬研究開発&事業開発 コンサルタント (2007~2014)
- ・ リーダーシップ開発 コンサルタント & 幼児の創造性開発のための教室 主宰 (2007~2014)
- ・ GSK筑波研究所 所長 (2002~2007)、生物科学研究部 部長 (1999~2007)
- ・ ノバルティス 移植研究領域 マネジャー (1996~1999)
- ・ 岡山大学工学部生物応用工学科 助教授 (1990 1996)
- ・ Roche分子生物学研究所 ポスドク (1989~1990)
- ・ 大阪大学産業科学研究所 助手 (1986~1990)
- ・ 東京大学大学院薬学研究科 博士課程修了 薬学博士 (1986)